

## 会議録

会議の名称	第3回 西東京市都市計画マスタープラン中間見直し策定委員会
開催日時	平成25年2月22日 午前9時30分から11時30分まで
開催場所	保谷庁舎4階 第3会議室
出席者	委員：根上委員長、讃岐副委員長、市賀委員、村田委員、糟谷委員、中村委員、丸木委員 出席者合計7名 （欠席）紺野委員、田中委員 事務局：湊都市計画課長、山田まちづくり総合調整特命主幹、伊佐美課長補佐、乙幡主事、並木主事、パシフィックコンサルタンツ株式会社松本技術課長、増原、村井 傍聴者：1名
議題	議題（1） 今回検討範囲の位置づけと前回までの振り返り 議題（2） 全体構想の構成と中間見直しのポイント 議題（3） 全体構想（素案）について 議題（4） その他
会議資料の名称	資料（1-1） 全体構想の見直し検討スケジュール 資料（1-2） 主な指摘事項とそれを踏まえた検討課題 資料（1-3） 各種団体のヒアリング結果 資料（2） 全体構想の構成と中間見直しのポイント 資料（3） 西東京市都市計画マスタープラン中間見直し全体構想（素案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録      発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 開会挨拶</p> <p>2. 資料説明 事務局： 資料1-1～1-3の説明 特に質問なし</p> <p>事務局： 資料2の説明 特に質問なし</p> <p>事務局：</p>	

資料3の説明  
特に質問なし

### 3. 議題

(資料全般についての質疑応答)

委員：

資料1-2に書かれている周辺市からの人を呼び込む集客について。広域幹線道路について、大きな道路を作っても、他都市の人が通過するだけの道路では意味がない。公園等に引き込む工夫が必要。

新しく作るのも大事だが、昔からのまち並みを保存・継承していく事が必要であり、みどりの保全にも繋がる。田無には宿場町としての歴史が有り青梅街道には資源も残っていることから、川越のようにまち並みを通じて人を呼び込むことも必要ではないか。

事務局：

西3・2・6号線という西東京市にとって背骨のような骨格道路ができあがる。道路の後背地は、農地や住宅地であり、すぐに沿道サービス型の店舗が張り付くとは思えない。また、東京都が道路、公園、河川の3事業が連携して進めている東伏見公園という公園事業も有り調布保谷線と共に西東京市の顔となるだろう。ここを起爆剤に、他地域の人を呼び込んでいけないか。

田無は宿場町であるが、その歴史的なまちなみについて都市計画マスタープランでは特に保全などの記述をしていない。都市計画マスタープランに組み込めるか、検討する。

委員：

産業振興マスタープランにおいても農業振興計画が検討されており、農業分野に関して営農者へのアンケート・ヒアリングを実施している。現在の声を、都市マスの見直しの中で反映していただきたい。

事務局：

市の内部で、産業振興課等の関係各課と連携を取りながら、双方の書き込み方を調整しているところである。生産緑地の取扱いについても調整している。具体的な取り組みについては、都市計画マスタープランには書き込めないが、どういう視点で課題を捉えているかは書き込みたい。

委員長：

中間見直しとして、新たに書き込んでいるところがある。わかりやすく表現されているか、少し気になる。長期と中短期の関係がわかりづらい。例えば資料3の6ページの目標年次の箇所では、中間見直しの設定を入れた方が良い。

赤字部分が変更点という説明があったが、最後の製本時には、黒字になってしまい、追加箇所がどこかわからなくなってしまう。工夫が必要である。

事務局：

現行の都市計画マスタープランは20年計画であり、中間見直しである。方針や理念は変えられないが、表現の工夫はしていきたい。

委員：

資料3の39、40ページにある体系的な道路網の整備は、分かりやすく整理されていると思う。

委員長：

資料3の19ページの将来都市構造図について、どの時点での都市構造を入れるのか。計画期間を超えて更に先を考えると、もっと盛り込める所もあるかもしれない。この図について何か意見はないか。自分としては今回のマスタープランの到達点としては、この程度だろうかと考えている。

事務局：

計画書の中で経緯を示すことは難しいので、本日は経緯を補足する資料1-2をつけた。西3・2・6号線はまさしく南北軸としてふさわしいが、西3・4・20号線は西3・4・13号線の所で止まっている。こうした点で広域幹線道路となっていない。3・4・26号線の事業化の見通しが付くと位置づけも変わってくるだろうが、現時点では南北軸として設定することは難しい。

委員：

資料1-2では時間軸で3パターンあるが、「3.長期的展望」の図が計画書に載るのか。

事務局：

それではなく「2.都市マスで目指す将来都市構造」である。

委員長：

将来都市構造に都市拠点に掲載されており土地利用の方針でも拠点がでてくるが、名前や表現が若干違うところがある。できるだけ揃えて欲しい。

事務局：

過去の経緯も踏まえながら、なるべく表現を統一する。

委員：

防災については、地域の防災力の強化について地域防災計画の見直しに合わせて、その結果を反映していくということだが、タイミング的にできあがるのが秋ごろになる。スケジュールとして大丈夫か。

事務局：

事務局が地域防災計画の見直しの委員にも入っているため、危機管理室と調整しながら進めていける。記載方法に関する調整も同時進行する。

委員：

高齢化の進展に伴って救急車の利用が非常に多い。多摩地区では90パーセント以上が出勤して救急要請があっても、近隣の救急車が出払っていて対応に時間を要する場合もある。より具体的な対策を進めていく際には、団体ヒアリング結果に出ていたコンビニにAEDを設置するといったアイデアも参考にしてもらいたい。

事務局：

具体的な方策を検討している担当にも情報提供していく。

委員：

資料3の44ページにある生活幹線道路と一般幹線道路との振り分け方の根拠は何か。都道233号線は生活幹線道路だが構造図では連携都市軸という大きな位置づけとなっている。

事務局：

資料3の44ページの方針図については、現行の道路整備計画をそのまま位置づけている。都道を連携都市軸として打ち出しているの、整合をもう一度確認する。基本的に東西軸や南北軸は、広域的な位置づけがされている広域幹線道路と位置づけている道路であり、その次の位置づけとして一般幹線道路としている。都市計画道路となっていないところは、生活幹線道路に振り分けたりしている。もう一度、これらの整合を確認する。

委員：

一般の人も都市計画マスタープランを見るのか。

事務局：

都市部門の一番大きな計画である。一般の方が見られる機会は少ないと思うが、ホームページなどにも掲載している。来年度には、地域別に懇談会を行う予定である。その際に市民の方々からの意見も取り入れたいと考えている。

委員長：

できるだけ、市民にわかりやすい計画になるように心がけてほしい。本当は全市民に見てほしい計画なので、分かりづらいところなどがあれば、ぜひ指摘してほしい。一般の市民の方の意見を取り入れる機会も設けている。

副委員長：

市外からの集客効果を期待するなら、広域幹線道路から拠点に人をどう呼び込むのかが分かりやすく具体的なビジョンとして示されていけばよいと思う。地域別構想のところでも示せると良い。

事務局：

来年度には10地区で具体的に検討していく。今回は全体構想も素案であるため地域別の検討が進んだ結果を反映して変更することも柔軟に考えている。

委員長：

今回は素案については初見でもあり、お気づきの点があれば、事務局に連絡いただければと思う。

事務局：

本日、素案について意見をいただいた。多少、言葉の整理が必要となっている。お気づきの点があれば、事務局に連絡いただければそちらもできる限り反映させ、その修正後、委員に送付する。その時点のものを素案とし、都市計画審議会に報告する。その後、新年度には地域別に構想の検討を進めていき、最終的に全体構想とあわせて、都市計画マスタープラン案を作成する。その時点で、全体構想への意見を反映させていただく可能性もある。

## 5 その他

事務局：

来年度は夏頃を初回として計3回の開催を予定している。改めて調整させて頂くが引き続きご協力をお願いしたい。

## 6 閉会

以上